笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３４１号
平成２７年５月１日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

歴 史 の 舞 台 で

校　長　　鈴木　隆志

旧川越街道の北町３丁目に、「私立相原小学校跡」の立て札があります。「相原萬吉（武州北豊島郡下練馬生まれ）は嘉永５（1852）年に下練馬村８４２番地（現北町３丁目２１番地）に『群鶯堂（ぐんがどう）』を開塾した。明治５（1872）年に明治政府が学制を布告、翌年の明治６（1873）年に『私立相原小学校』を開校。明治２０年代に入り、私学が廃止していく中、区内で最後まで残ったのは下練馬の相原小学校だけであった。明治２６年頃に相原小学校が閉校。」と書かれています。

今から１５０年も昔に、思いを寄せてみました。光が丘・田柄の地は、江戸の頃から武州北豊島郡上練馬村の一帯でした。明治１１年郡区町村制施行の際には、現在の光が丘１丁目や田柄４丁目は、上練馬村大字下土支田字八丁原（八町原）でした。きっと、広大な農地が広がっていたのでしょう。

大正の終わりから昭和にかけて、現在の光が丘公園旭町２丁目区域のところに、日本初の私立養護学校「花岡学園」がありました。神田で小児科医院を開業していた花岡和雄医師が、関東大震災後の都会の環境悪化に憂慮し、私財を投じ花岡学園を設立したのは、大正１４（1925）年のことでした。

光が丘の地が、戦時中は「成増陸軍飛行場」であったことは、皆さんも御存知でしょう。光八小のある光が丘１丁目も、成増飛行場内の補助滑走路地区でした。飛行場を囲む田柄の地域には、掩体壕が作られました。掩体壕とは、航空機を敵の攻撃から守るための格納庫のことです。成増飛行場の周りには、１０３の飛行機掩体壕と４３の車輌掩体壕があったとされています。光八小のすぐ近くにも平成６（1994）年まで、掩体壕が残っていました。掩体壕は、当時の子供の遊び場だったようです。戦争の時代に思いを巡らせると、戦後７０年の今、平和の大切さへの思いを身にしみて強くします。

終戦後、成増飛行場は米軍に接収され、米軍家族の宿舎「グラントハイツ」となりました。現在の光八小のあたりも、金網に囲まれた“別世界”だったのです。昭和４７（1972）年～４８（1973）年にグラントハイツが返還されました。４７年の第一次返還後のむつみ台地区には、「むつみ台団地」３棟が建設されました。むつみ台団地は昭和４８年に完成しました。

むつみ台団地完成当時の子供たちは、田柄小学校に通っていました。昭和５２（1977）年に田柄第三小学校（現在の光が丘秋の陽小学校）が開校して移りましたが、地域の皆さんの熱い思いのもと、平成元（1989）年に練馬区６８番目（当時）の小学校として、光が丘第八小学校が誕生したのです。ちなみに光八小の開校記念日が６月８日であるのは、６８番目の学校に由来しています。現在では、光が丘地区の小学校適正配置のため、田三小や光一小から光七小の名前はありません。光八小の名が光が丘の歴史を物語っているのです。

相原小学校や花岡学園の時代から、地域の子供たちへの深い愛情の歴史は、綿々と続いています。光八小に通う光っ子たちは、一人一人が歴史の舞台に立つ主人公です。光っ子たち一人一人の営みが今の光八小を創っているのです。一人一人がすすんで学ぶ子供であってほしい、一人一人が仲良く助け合う子供であってほしい、一人一人が健康で明るい子供であってほしいと願っています。そして、一人一人の健全な営みを紡いでいくことによって、光八小を地域からも愛される学校にしていくことができると思っています。光八小は子供が主人公ではありますが、保護者にとっても、地域にとっても、教員にとっても、自分たちの学校です。光八小は、「みんなの学校」です。